



2019年8月=日

長崎医療人育成事業（N-MEC）歯科部門 調印式

医科連携で術後合併症リスクを軽減

長崎大学病院は8月5日、長崎みなとメディカルセンターと長崎医療人育成事業（N-MEC）に関する協定書調印式を行います。同事業に関する協定書締結は3カ所目で、歯科部門は初めて。

長崎みなとメディカルセンターでは手術前後の入院患者さんを対象に口腔ケアを実施しながら、医科と連携した分野での歯科医師育成を目指していきます。

【調印式】

日時: 2019年8月5日 13:30~

場所: 長崎大学病院

式次第

- 1、開式
- 2、協定書署名
- 3、あいさつ

長崎大学長

河野 茂(こうの・しげる)

長崎市立病院機構理事長 兼 みなとメディカルセンター院長

兼松 隆之(かねまつ・たかし)

- 4、写真撮影
- 5、閉式

※ 13:00に病院正面玄関の総合受付にお越しください。

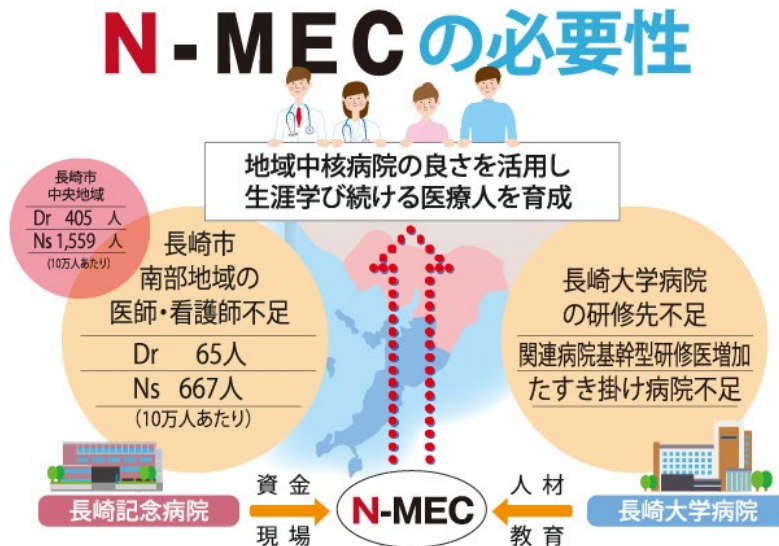
※ 取材に際して各社腕章の着用をお願いします。

※ ご来院の際は公共交通機関をご利用ください。



【N-MEC について】

県内の地域医療を支える人材を育成するため、地域病院に本院の長崎医療人育成室（N-MEC）を設置する。本事業では若手医療者への教育ができる医療者を常駐させ、数名の研修医が地域医療の現場を学ぶシステムを構築している。医療者不足などの課題を抱える地域病院の診療も支える点もある。現在、長崎記念病院（長崎市深堀町 1 丁目）、済生会長崎病院（長崎市片淵 2 丁目）と協定を結んでいる。また医師のほかに看護師も派遣している。常駐する医療者にかかる費用などは、協定を締結した地域病院が負担する。



【長崎みなとメディカルセンターとの歯科部門の協定について】

N-MEC 3カ所目になる長崎みなとメディカルセンターでは、新設予定の歯科部門で、手術前後（周術期）の患者さんに対して口腔内を清潔に保つケア（管理）を実施していく。歯科医師 1 名を常駐させて、歯科研修医の教育の場として活用する。

医科系診療科と歯科の連携が注目される昨今、周術期口腔ケアのニーズは増えている。周術期口腔ケアのメリットは術後の合併症予防のほか、入院期間の短縮などにもつながっている。これまで同センターでは長崎市歯科医師会の歯科医師が周術期口腔ケアを担当してきた。

※周術期：手術前とその後の期間のこと。

**【周術期口腔ケアとは】**

手術前と手術後の入院患者さんの口の中を清潔に保つことによって、誤嚥性肺炎や感染症などの合併症リスクを軽減するなど、予防的効果が注目されている。

本院は2012年から全身麻酔による心疾患やがんなどの手術患者を対象に周術期口腔ケアに取り組み始め、医科系診療科との連携に努めてきた。現在は手術が必要とされる入院患者すべてに対象を広げて、口腔ケアに取り組んでいる。

この件に関する問い合わせ

病院長企画室（大浦）

095-819-7790